

日本ユネスコ国内委員会の活動に関する報告(人間と生物圏(MAB)計画分科会)
(平成 27 年 5 月 18 日～平成 28 年 7 月 31 日)

※所属・職名等は当時のもの



第 27 回人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会

平成 27 年 6 月 8 日～12 日、パリ(フランス)のユネスコ本部において、第 27 回人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会が開催されました。我が国からは、松田 裕之 MAB 計画分科会調査委員、板倉 寛 文部科学省大臣官房国際課課長補佐ほか 2 名が出席しました。

MAB 計画は、生物多様性や貴重な環境を保護しつつ、自然と人間が共存して持続可能な発展を続けていくことを目指しており、ESD やサステナビリティ・サイエンスの理念と深く関わっています。

本理事会では、各国から提案された新規生物圏保存地域の審査(日本は該当なし)や、2015 年から 2025 年までの MAB 活動の戦略文書が採択されました。

第 14 回生物圏保存地域東アジア・ネットワーク会議(EABRN)



セッションの様子

平成 27 年 10 月 6 日～9 日、日本ユネスコ国内委員会は、ユネスコ北京事務所、志賀高原ユネスコエコパークと共に、長野県山ノ内町において「第 14 回生物圏保存地域東アジア・ネットワーク会議(EABRN)」を開催しました。本会議は、「Activities in transition area and the role of local communities in managing BRs」というテーマで開催され、日本、中国、カザフスタン、モンゴル、韓国、ロシアの MAB 関係者、約 40 名が参加しました。日本ユネスコ国内委員会からは、人間と生物圏(MAB)計画分科会の礒田 博子 主査、岩熊 敏夫 委員、佐藤 哲 委員、文部科学省からは、野田 孝夫 国際統括官付ユネスコ協力官

が参加しました。

本会議では様々なセッションが開催され、それぞれのテーマに関する発表やカントリーレポートの発表が各国から行われました。また、志賀高原ユネスコエコパークの現地調査が行われ、各参加者からのコメントや質疑応答が行われました。EABRN の活動は、メンバー国間の良いコミュニケーションの場で、友好を深める機会となっています。今後も会合は定期的に行われる予定であり、EABRN の枠組みを活用したユネスコエコパークの国際的な交流・取組の一層の促進が期待されます。

第3回日本ユネスコエコパークネットワーク(JBRN)大会【日本/ユネスコパートナーシップ】

事業により支援】

平成27年10月6日～10月8日、志賀高原ユネスコエコパークにおいて、「第3回日本ユネスコエコパークネットワーク(JBRN)大会」が、「日本/ユネスコパートナーシップ事業」により開催されました。本大会は、「第14回生物圏保存地域東アジア・ネットワーク会議(EABRN)」との合同開催です。

本大会では、日本のユネスコエコパーク登録地域の首長らが一堂に会し、日本ユネスコエコパークネットワーク(JBRN)を7つの登録地域を主体とした新しいネットワーク

組織とすることが決定されました。また、ユネスコエコパークの普及啓発やブランド化、またユネスコエコパークの管理運営計画の策定に対し、「住民をどのように関与させていくか」という国内・国外問わず共通した課題について議論がなされ、活発な意見交換が行われました。

本大会を経て発足した新しいJBRNの枠組においては、それぞれの地域に適合した方法により、自らの手で持続可能な社会を創り上げていくことが推奨されるとともに、ユネスコエコパーク間のネットワークによって、調査・研究の成果、事業の戦略、ノウハウ等を共有することで、魅力ある地域づくりの取組が一層活性化することが期待されます。また同時に、世界のユネスコエコパークとの連携を深めることにより、地球規模での持続可能な社会づくりに貢献することが期待されます。



日本ユネスコエコパークネットワーク大会にて

「白山」「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」「屋久島・口永良部島」ユネスコエコパークの拡張登録

決定



平成28年3月18～19日、リマ(ペルー)で第28回人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会が開催され、我が国から生物圏保存地域(国内呼称:ユネスコエコパーク、英語略称:BR)に推薦していた「白山」(富山県・石川県・福井県・岐阜県)、「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」(奈良県、三重県)、「屋久島・口永良部島」(鹿児島県)の拡張登録が決定されました。

本会議には、我が国からは、岩熊 敏夫 MAB 計画分科会調査委員、野田文部科学省国際統括官付ユネスコ協力官(当時)外4名が出席し、第27回国際調整理事会で採択されたMAB戦略(2015年～2025年)に対応し、今後10年間のBRの役割について策定したリマ行動計画の採択等が行われました。

また、国際調整理事会に先駆け、平成28年3月14～17日に第4回生物圏保存地域世界大会が同時開催され、我が国から、岩熊 敏夫 MAB 計画分科会調査委員、松田 裕之 MAB 計画分科会調

査委員のほか、ユネスコエコパーク登録地域を代表して中村 真介 日本ユネスコエコパークネットワーク(JBRN)／白山ユネスコエコパーク協議会 等外 10 名が出席し、BR を取り巻く多様なステークホルダー間の意見交換等が行われ、関係者間のネットワーキングの機会となりました。



大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク拡張登録記念フォーラム～『ユネスコエコパーク

クの今後の展望～森・里・海のつながりと地域経済の発展～』



平成 28 年 3 月にペルーで開催されたユネスコ MAB 計画国際調整理事会において、大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパークの拡張登録が決定されたことを受け、平成 28 年 5 月 28 日、奈良県川上村において、拡張登録記念フォーラムが開催され、同フォーラムにて、磯田博子 MAB 計画分科会主査から認定証が手交されました。

第4回日本ユネスコエコパークネットワーク(JBRN)大会【一部、政府開発援助ユネスコ活

動費補助金により支援】

平成 28 年 7 月 25 日～7 月 26 日、国際連合大学本部において、「第 4 回日本ユネスコエコパークネットワーク(JBRN)大会」が開催されました。

本大会では、国内ユネスコエコパーク登録地域や登録を目指す地域、日本MAB計画委員会委員など、ユネスコエコパーク関係者が一堂に会し、ユネスコエコパークに係る普及啓発などの課題解決に向けて地域が協力・連携していくことを確認しました。

また、併せて開催された国際シンポジウムでは、「生物文化多様性保全に向けた多様な主体:アジアのユネスコエコパーク」をテーマに、政府開発援助ユネスコ活動費補助金により、アジア(韓国・カザフスタン・インドネシア)のMAB関係者を招へいし、リマ行動計画に基づく各国における活動状況等が報告され、今後のユネスコエコパークの取組みについて参加者間による意見交換が行われました。



国際会議等一覧

会議等名称	開催日程 (開催地)	主な内容	我が国出席者
第 27 回人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会	27.6.8-12 (パリ・フランス)	各国から提案された新規生物圏保存地域の審査(日本は該当なし)や、2015 年から2025 年までの MAB 活動の戦略文書が採択された。	松田裕之 MAB 計画分科会調査委員、板倉寛文部科学省大臣官房国際課課長補佐ほか
ユネスコ人間と生物圏(MAB)計画戦略ワーキンググループ(MSG)会合	27.9.1-2 (フランス・パリ)	6 月に採択された MAB 新戦略に基づく2016-2025 年までの MAB 行動計画案(Ver.1)が議論された。	松田裕之 MAB 計画分科会調査委員
第 14 回生物圏保存地域東アジア・ネットワーク会議(EABRN)	27.10.6-9 (日本・長野県山ノ内町)	日本、中国、カザフスタン、モンゴル、韓国、ロシアの MAB 関係者、約40名が参加し、様々な議題について発表を行ったほか、現地調査、ネットワーク活動を行った。	磯田博子 MAB 計画分科会主査、岩熊敏夫 MAB 計画分科会調査委員、佐藤哲 MAB 計画分科会調査委員、野田孝夫文部科学省国際統括官付ユネスコ協力官
第 4 回生物圏保存地域(BR)世界大会	28.3.14-17 (ペルー・リマ)	「持続可能な開発のための2030 アジェンダ」に関わる諸問題、特に持続可能な開発のための教育、経済から見た環境保全の実現可能性、生物多様性、自然資源の保護と活用について、また、BRの将来像について議論が行われた。	岩熊敏夫 MAB 計画分科会調査委員、松田裕之 MAB 計画分科会調査委員、文部科学省担当官ほか
第 28 回人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会	28.3.18-19 (ペルー・リマ)	我が国から生物圏保存地域(日本呼称:ユネスコエコパーク)に推薦していた「白山」(富山県・石川県・福井県・岐阜県)、「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」(奈良県、三重県)、「屋久島・口永良部島」(鹿児島県)の拡張登録が決定された。また、今後 10 年間の生物圏保存地域の役割について策定したリマ行動計画の採択等が行われた。	岩熊敏夫 MAB 計画分科会調査委員、野田孝夫文部科学省国際統括官付ユネスコ協力官ほか

<p>国際ワークショップ「ユネスコエコパークのためのリマ行動計画の実行における地方自治体の役割」【J-FITを活用してユネスコジャカルタ事務所が開催した会議】</p>	<p>28.6.2-4 (インドネシア・ワカトビ)</p>	<p>3月に策定されたリマ行動計画のフォローアップとして、MAB計画における地方自治体の役割を促進することを目的に開催され、我が国からは地方自治体を中心となって活動している日本のユネスコエコパークについて報告した。また、国際調整理事会に対するワカトビ勧告が作成された。</p>	<p>中村真介 日本ユネスコエコパークネットワーク(JBRN)／白山ユネスコエコパーク協議会</p>
<p>2030 アジェンダに向けた現地のユネスコ及びネットワーク間の連携の促進(第3回アジア太平洋ユネスコエコパークネットワーク戦略会議併催)【J-FITを活用してユネスコジャカルタ事務所が開催した会議】</p>	<p>28.7.21-24 (インドネシア・バリ)</p>	<p>2030 アジェンダの履行を見据えながら、ユネスコの科学事業やユネスコの地域事務所間の連携を深めるために開催され、我が国からは第14回生物圏保存地域東アジア・ネットワーク会議の開催や地方自治体を中心とした日本ユネスコエコパークネットワークの活動について報告した。</p>	<p>中村真介 日本ユネスコエコパークネットワーク(JBRN)／白山ユネスコエコパーク協議会ほか</p>

国内委員会会議

年月日	会議名	主な内容
27.5.18	第32回 MAB 計画分科会	<ul style="list-style-type: none"> ・第27回ユネスコMAB計画国際調整理事会への対応について ・平成27年ユネスコエコパーク申請について
27.8.24	第33回 MAB 計画分科会	<ul style="list-style-type: none"> ・第27回ユネスコMAB計画国際調整理事会について ・平成27年ユネスコエコパーク申請地域について
27.11.5	第34回 MAB 計画分科会	<ul style="list-style-type: none"> ・第14回生物圏保存地域東アジア・ネットワーク会議(EABRN)について ・平成28年ユネスコエコパーク申請について
28.3.3	第35回 MAB 計画分科会	<ul style="list-style-type: none"> ・BR国際諮問委員会の勧告について ・第28回ユネスコMAB計画国際調整理事会への対応及び第4回生物圏保存地域世界大会について ・平成28年ユネスコエコパーク申請案件について

国内関連会議・イベント等

年月日	会議・イベント等 名	主 な 内 容
27.5.30-31, 6.27-28	白山ユネスコエコパーク・リレーションシンポジウム「ユネスコエコパークで再発見する地域の魅力」【後援事業】	南アルプス・志賀高原・綾の各ユネスコエコパークからも講演者を迎え、日本のユネスコエコパーク活動や、白山の自然・文化資源とそれを活かした活動について、白山の地域住民向けに発信された。
28.1.23	ユネスコジオパーク誕生記念フォーラム	石川県白山市において、ユネスコ世界ジオパークの誕生を記念して開催された。松浦晃一郎 前ユネスコ事務局長や松田裕之 MAB 計画分科会調査委員を迎えて日本の MAB 活動がジオパーク関係者に共有され、ユネスコ事業間の交流と学び合いが行われた。(日本ジオパークネットワーク主催)
28.2.27	日本ユネスコ国内委員会フェロシップ事業によるアジア太平洋地域等のユネスコ国内委員会職員等の白山ユネスコエコパーク訪問	日本ユネスコ国内委員会が行うフェロシップ事業の一環として、中国・韓国・タイ・マレーシア・ドイツのユネスコ国内委員会職員を白山ユネスコエコパークに案内し、豪雪地の伝統的な暮らしや自然体験活動の視察を実施した。
28.5.10	白山ユネスコエコパーク拡張登録記念シンポジウム【後援事業】	ユネスコ本部からMABネットワークキングセクションチーフNoëline Raondry Rakotoarisoa氏を迎えて白山ユネスコエコパークの拡張登録を祝福し、7市村長を交えての今後に向けた議論が交わされた。なお、Noëline氏はこれに先立ち、4日間をかけて白山ユネスコエコパーク全域を視察した。
28.5.11	国際シンポジウム「世界ネットワークを通じた学びあいと生物文化多様性の保全ーユネスコエコパークの事例から考えるー」【後援事業】	東京の国連大学本部において、ユネスコ本部からMABネットワークキングセクションチーフNoëline Raondry Rakotoarisoa氏を迎え、日本の各ユネスコエコパークの担当者とともに、世界ネットワークを通じた学び合いについて議論が交わされた。また、会場では学び合いの素材として、政府開発援助ユネスコ活動費補助金の支援により制作された『白山ユネスコエコパークーひとと自然が紡ぐ地域の未来へー』が配布され、その内容や特徴も報告された。(国連大学いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット主催)